LORDS BURG TIMES
ローツバーグ時報
-198-
ローツバーグ日本人收容所知事局
四月十五日 木曜日 第一九八号

戰後の全歐主義檢討
独伊両巨頭會見續報、参加せし両国要官等。

既報枢軸両巨頭の会見の場所は征露大本營で行はれ四日間に亘ったが参加要官の顔觸は左の如く戰後の全歐共榮組織に就いて徹底的諒解を遂げた。

（独逸側）大總統ヒトラー、陸相ゲーリング、外相リッペントロップ、陸軍軍令部長カイテル、海軍提督ドエニッツ参謀總長ツアイツレル及駐伊大使マッケンゼン等外数名。

（伊太利側）首相ムッソリーニ、参謀總長アムブロシオ、外相バスタニ、駐伯林大使アルフイーレ其他随行員数名。

尚ほ右樞軸會議は専ら歐洲事情及び戰後の対策が主題であって東亜問題並に日本に対する関係は討議に上らなかったとDNBが放送した。

聯合軍の欧州攻略難
伊太利の地勢的優越

国際通信社調査に依れば聯合軍のアフリカ攻略は欧州本土に進駐すべき前提にして所謂セコンドフロントを開くべき踏み台としてアフリカを征定する必要に迫られたが四月十五日に地中海を北にして展望するに歐州本土に進軍する第一番の障害はサーデナ及シシリー両島であるとて次の如く観てゐる。

（一）地中海の一切の船艦は独逸司令下に在り従って供給線切断一層困難なり。

（二）樞軸の地中海要塞はツーロン、ラスペジア、ナポレ、サーデナ島、シシリー島、タラントー港、アゼンス、サロニカ、クリート島、ローズ島の十ヶ所であるが就中シシリー、サーデナ両島の防備頗る堅固である。

（三）右に対してチューニス及ビザーテ両地尚ほ樞軸が死守してゐる爲めに事実上は西佛国境よりビザーテ港まで一線を引き其処より更に右クリート及ローズ両島へ一線を引き受る圏内は樞軸防備である而して軍事上の飛石は前記シシリー及サーデナが最短距離である。

平出大佐の宣言
日本軍大規模的攻勢

（マクアーサ本営附合同十五日発）本日統帥部は軍事報告書を以って次の如く警告した。

『日本空軍は強力編成にて水曜日にミルネ湾米国陣地を白晝爆撃したが日本軍は多大の損害にて敗北した』

東京放送としては平出大佐は南太平洋今回の攻勢は大規模のものであり聯合国の各要地を襲撃すると宣言した。

此間日本空軍はオロベー、モースビー軍港及ツラギ島を夫々百台宛の編成にて猛爆したが右爆撃開始以来五日後に於てマクアーサ將軍は日本軍の侵略防止の見込みがついたと発表した。

若狭初喜氏射殺さる

ユタ州トパザーセンターに在った若狭初喜（一八二）は昨夜ガードに依り射殺されたと当局より発表した。説明には夜中金網に登り上ったので署の者が之を止めんとしたが遂に憲兵に依り射殺した。

戰後米国在留の日本人はどうなるか（一）
評論家 ダモン、ランヨン

此問題は実に熟慮を要する問題である然し之は大体に於て米国の問題である故に之を解決せんとする米国の識者が大きな世間的問題として取扱ってはならぬ我が国の指導者が全世界を処理せんとする時に米国の比較的一部分に於ける斯くの如き小問題の為に憂慮してはならぬ

太平洋沿岸に於ける識者は既に戰後に於て其大多数は出生により米国市民である日本人に就て全地方が直面する事態を熟慮し又論議しつゝある。讀者諸君はシアトルのキャプテン、フリーマンにより発表された処の日本人問題解決策に興味を懷く事と信ずる。フリーマンは多年日本人の米国に於ける発展に対し警告してゐた一人である。

フリーマンはその主宰する雑誌「ロッグ」を通じ加州々議会の議員トーマス、エー、マンローに一書を送りその中に戰後の日本人問題に関し八ヶ條をあげてその意見を発表した。

メリー・ゴー・ラウンド

東京爆撃の眞相發表

米国最高司令部が許さぬ。

世界を驚かし更に日本をして唖然たらしめた米国空軍の東京爆撃は將に一周年記念日を迎へんとしてゐる。然るに米国一般は此の空襲の眞相を知らないのである

而して是に対する第一の印象は全ての米国飛行機は安全であると云ふ事であつた。その後日本は米国航空母艦ホーネット号を沈没せしめたが此のホーネットは東京爆撃に參加したものであると發表した。然し米国海軍は之を承認しなかつた。

去る夏陸軍省は東京爆撃に関して一部の放送〝発表を新聞に許した。而して明かに之に関する全部を放送する事に異議なかつた。一方海軍もまた之に関する一部の発表に異議なかつた。若し何か異議ありとしたら何か話がある筈であつた。如何となれば雑誌コリアーは既に東京爆撃に関する全部を書きあげてタイプをセットして最高当局からのレリースあればそれを印刷する許りとなつてゐる。

然しながら陸海軍両省に関する最後の命令を発する唯一人の最高司令官が東京爆撃に関する全額の公表を望まないのである。

その理由はなぜか何人も全く知らないのである。

クリスタル市音信（三）

前略。キャンプの灯を遠くに見送りつゝ、路東進いたしました窓外を眺むれば一眺の沙漠ですが籠の鳥が放たれたる心地にて物珍らしく互に語り且つ笑ひ合つて退屈もせず夜となれば気もゆるんでゆっくり一睡いたしました処朝の五時に到着の知らせに同到着は夕方と聞いて居りましたのでびっくり目をこすり合ひました。

停車致して居りますので顔も洗へず髪をとく暇もなく下車を命ぜられトラックでキャンプへ入り到しましたせめて顔位洗って対面したかったのですがねぼけ顔で無事の再会を喜び合ひましたお互に便りは交して居りましたが顔を見るまではどうかと案じて居りましたが元気で居ります。一同無事に入所は致しましたものの待たるゝは家族の来所でいつになるかわかりませんが一日も早かれと一同努力いたして居ります。

気の早い連中はハシゴやシャモジの製造に余念ありません。炊事は各家族別々でオイルストーブにアイスボクス其他炊事用品一揃支給されて居りまして支給されたキャンプ・モネで好きな品を買ってコックする事になって居ります。久し振りの濃い味噌汁に舌鼓を打ち差向ひのビヤの一杯は過去十三ヶ月の苦労を忘れた心地でした併し未だ同居出来ない人が大部分ですから何だか滑まぬ気も致しまして一日も早く家族が同居出来るようにと祈って居ります。奥さん、角西氏からも皆さんに宜敷と申して居ります。　三月廿日

137　CARELESSNESS

One cannot be too careful. Once a present of Lincoln's "Gettysburg Address" was sent to a magazine by a person who thought it would be a good thing for the editor to have it framed and hung above his editorial desk. Thru office routine the gift was mistaken for an original contribution. The donor received this note from the publication:

"We shall be glad to accept your little skit for publication. While there is nothing very new in it, we believe our readers will enjoy its optimistic tone."

And the magazine was going to publish the paper after making some "corrections." Fortunately, however, the blunder was discovered in time.

不注意

人間は何より注意が肝要。曾て或る男がかの有名なリンコルンの「ゲティスバーグ」の演説を式る雑誌社へ贈った。ところが寄稿はイッたあることだからそれを寄稿だと考へて　その男へこんな通知を寄こした。「貴文は落き致し候間にとり立てい新鮮なこと迄無之候へども其の樂天的な品調は讀者に受けることゝ信じ候」で、その演説を「訂正」した揭句雑誌へ出さうとしたがキリドイところで気がつけて呉れたら好いと思つたからだ

一五七

昨日の英文

漏字　it sally forth

it'll (it will) sally forth

木曜坐談會開催

木曜七時半より十二中隊食堂に於て木曜坐談会を開催致します会及び有志諸氏の御出席を希望

今十五日（木）午後七時半より五中隊食堂に於いて曹洞宗禪學會坐談會開催

各会員漏れなく御出席下さい（会費不要）